

Title	国立公園創設の経緯：原自然の保護か 資源の利用か
Author(s)	村上, 公久
Citation	聖学院大学論叢, 第 24 卷(第 1 号), 2011.10 : 59-73
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/repos/modules/xoonips/detail.php?item_id=3330
Rights	

聖学院学術情報発信システム：SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

〈原著論文〉

国立公園創設の経緯 ——原自然の保護か 資源の利用か——

村 上 公 久

Dual Missions in Making National Park:

Scripture of Nature and People's Resort; Yosemite and Yellowstone

Kimihisa MURAKAMI

America's national parks are a preserved 'sub-ecosphere' established in the North American Continent as the last refuge in which magnificent animals, plants, and micro-organisms are saved. Without the concept and development of the National Park, bio-diversity would have vanished forever. And America's national parks are an indispensable resort for people to refresh and recreate themselves, as well.

The story of the national parks is the story of the American people. Since its beginning, the National Park has swung between two missions: preserving nature and providing accessibility for the present and future generations. The conflict between these dual missions has been the driving force in making and developing the National Park system for 150 years. In the process of the establishment of Yosemite and Yellowstone National Parks as the first national parks in the world we find the efforts made through the struggle between those engaged in these dual missions. It is worth learning the birth story of the two parks, which are the fruit of 'America's Best Idea' to broaden our horizon of environmental conservation.

Key words; national park, the USA, Yosemite, Yellowstone, nature preservation, sightseeing resources

Key words; 国立公園, アメリカ合衆国, ヨセミテ, イェローストーン, 自然保護, 観光資源

0. はじめに 原自然 wilderness の保護——狩場の維持と自然保護——

IUCN International Union for Conservation of Nature and Natural Resources 国際自然保護連合の Definition of National Park by IUCN 「国立公園の定義」によれば、国立公園は“生態系の保護とリクレーションのために管理される保護区”とされている⁽¹⁾。

このIUCNの「定義」にある“生態系の保護とリクレーションのため”という二つの目的の達成は、アメリカ合衆国で始まった国立公園制度 National Park System がその創設の当初から抱えていた重くて大きな課題であった。双方の調和と目的達成においては困難を極めるこの二つの課題を内包して国立公園は誕生した。国立公園はその存在意義として「原自然の保護」と「資源の利用」との二つの対立する目的を抱えて着想され、構想され、そして創設された。国立公園を運営する行政の歩みは過去1世紀半にわたって「自然保護区としての国立公園」そして「観光地・リクレーションの場としての国立公園」という二つの目的の調和達成を目指して逡巡する紆余曲折の歴史である⁽²⁾。

アメリカ合衆国国立公園の父と称されるジョン・ミューア John Muir は北米の壮大な自然を Scripture of Nature (啓典としての大自然) と観ていた。ミューアに代表される手付かずの大自然を「保護」することを主張する人々は、国立公園の構想に際して「アメリカの譲渡し得ない遺産としての神聖な大自然」を国法によって保護区として設定すべきだとした。特にミューアは、山や溪谷を神の創造による神聖な「神殿」と見做していた。そこに富を得るための施設を建設することは山や谷を親しみと畏敬の念をもって仰ぐことが無い「全能のドル紙幣」を礼拝することだと非難した。一方同じ大自然を観光のための一大資源として捉える人々もいた。例えば大陸横断鉄道の増設を推進するに当たって、国立公園の創設に大きな期待を寄せ立法化を図る政治勢力があった。新しい国アメリカの人口集積地であった東海岸地域から多数の旅行・観光客を西部へと招くと共に関連する観光施設開発を推進するため、その大きな導因となる国立公園の開設を期していた。

画家カトリン George Catlin が抱いた国立公園の着想が具現し、実質上世界最初のそして法制上最初の国立公園がそれぞれヨセミテとイエローストーンに設定されてゆく国立公園の誕生期に、早くも「保護」と「利用」の対立が始まっていた。本試論では、アメリカ合衆国で世界最初の国立公園が創設される経緯にこれらの並立する二つの存在意義と目的が既に顕在化していて、それぞれの立場が対立し拮抗していたこと、また特にその当初において、これらの二つの対立するエネルギーが創設へと導く駆動力となったことを述べ、これらの国立公園の黎明期からあった二つのミッションの由来とそれらの国立公園の創設への関与を考察する。

自然保護の始まり——狩場の維持

中世以降の土地管理行政としての自然の保護は、ヨーロッパでの王侯貴族たちの「狩場の保護」として始まる。彼らのリクレーションの中でも特筆すべき楽しみである「狩」のための私的所有地である狩場が荒廃して狩の獲物が減少してゆくことを防ぐ土地管理を遂行するために、森林の中でも特に野生動物の個体数維持を図るために適した生息地となる広葉樹林の保護が図られた。これに資材としての木材および薪炭材の確保を含めて、森林資源の保全を目的とした森林学はヨーロッパ特にプロシア（ドイツ）の「官房学」に起源を持つ。これは王侯貴族たちの「狩場の保護」のための資源管理の延長に構築され恒続する森林資源を維持するための資源管理科学である*。

自然保護、特に森林保護はゲーム・リザーブ game reserve（狩の獲物の頭数維持のための自然保護区）の設定から始まる。狩猟の獲物となる野生動物特にシカの頭数を維持するために、また場合によっては増やすために広大な森林地域を保護することは紀元三世紀頃から始まっていた。現在は自然保護のために設定されている英国のロイヤル・フォレスト Royal Forest やオーストリアのウィーンの森 Wienerwald, Vienna Woods などの起源は王侯貴族たちが狩りを楽しむための排他的「狩猟保護区」である。game reserve は通常「鳥獣保護区」と和訳されるが、この言葉は wildlife reserve「野生動物保護区」すなわち wildlife に関するものではなく、game（狩の獲物）のための保護区である。

「原自然の保護」wilderness preservation（あるいは自然保護 nature protection）という概念を巡って「原自然」を意味する語 wilderness ウィルダネス⁽³⁾の語源について辿れば、wilderness は、中世英語 wildernes を経て古英語 wilddēorness に行き着く。wilddēorness とは the place of wild deer 「野生のシカの生息地」を意味している。ヨーロッパにおいての「原自然」とは本来は“人為によって乱されていない狩場”を意味していた。シカなど狩りの獲物となる動物が乱獲されておらず生息地である林地の生態系が樹林を含めて保たれている狩り場が「手付かずの原生自然」なのである。

“原自然の保護”が資源の保続的な利用のための土地管理であることは、上述の IUCN による国立公園の定義“生態系の保護とリクレーションのために管理される保護区”の後半“リクレーションのために”が自然保護の起源であったことと呼応する。これは今日の先進工業国の都市住民が意識する「手付かずの自然を護る」という「自然保護」の概念からは隔たって「人間が自然を利用し続けるために自然を護る」自然資源の保護が、自然保護の起源であったことが判る。

* 我が国では「ドイツ恒続林思想」と和訳されて受容されている森林資源管理科学は、プロシアの森林官で森林学の権威であったアルフレート・メーラー Möller, Alfred (1860-1922) が Der Dauerwaldgedanke, The idea of continuous forest として体系化したものである。これはプロシアの官房学の延長上の学として展開されたものである。

1. 国立公園 National Park 創立経緯の概要

Wallace Stegner ウォーラス・ステグナーは National Park アメリカ国立公園の着想は「我々アメリカ人がこれまでに考え出した最も優れたもの」であると明言する⁽⁴⁾。

アメリカ合衆国における放送メディアの一つ公共放送局 PBS, Public Broadcasting Service は放送メディアの良心を代表するとしばしば高く評価される。民間企業などのスポンサーに頼らず市民からの寄付によって運営されているこの PBS が企画し、2010 年放映したドキュメンタリーフィルム映像作品による長大な TV シリーズ The National Parks 「国立公園」⁽⁵⁾ はその副題を America's Best Idea としてアメリカの国立公園が優れた制度であることを告げている。このドキュメンタリーフィルム作品の放映は 2010 年度エミー賞を受賞したが、映像制作と同時に進行した出版企画である同題名 The National Parks: America's Best Idea⁽⁶⁾ においても、国立公園制度 US National Park Service が卓抜した着想と構想に基礎づけられた世界に冠たるアメリカ合衆国が生み出した社会制度 institution であることを記述し物語っている。また同映像作品シリーズの冒頭は、国立公園の歴史を紹介して、アメリカ合衆国において創立された国立公園 National Park を a radical idea「根底からの革新的な構想」と表現している。

自然破壊の進行と自然観の進化

ヨーロッパ大陸では原自然はその大部分は鬱蒼とした森林地帯であった。近代合理主義 modern rationalism に基礎づけられる人為 art の力によって自然 nature を制御する科学技術は未だ発達しておらず極めて過酷で予測しがたい自然条件の下で生活を営む社会では、人々は自分たちが自然の支配統制の下で生きている、と感じている。直接制御できない非常に強力で支配的な自然の力に直面した場合、人はただ従属し服従するような様式で行動できるだけだ、という自然観・世界観を持つ。このような自然観は、アニミズム animism に観られまた森林や未開地に対する中世（12～15 世紀の西ヨーロッパ）の迷信やお伽噺に、豊富にみられる。森林は悪魔の化身であり、昼なお暗く、不気味で、危険で、制御できないものであり、森林と未開地は避けるか、急いで通り抜けられるべきものとされている（赤頭巾ちゃん、ヘンゼルとグレーテル等に描かれている森のイメージ）。

時代が下りユーラシア大陸の西端であるヨーロッパ世界の一角にあって大陸部分とは隔たるブリテン島では、画家 John Constable ジョン・コンスタブルや Joseph Mallord William Turner ターナーの絵画などに見られる自然観が開花した。自然と風景をテーマとして描くことは、それまで宗教的な主題と人間の歴史を巡る主題とを扱ってきた文化に比して新鮮な芸術表現だった。桂冠詩人でもあった Wordsworth ワーズ・ワースの作品の中で現代世界で多く読まれるものは自然賛美の文学である。いずれも 1770 年代に生まれ 19 世紀の前半に没したこれらの三人のアーティストの作品群は、

人間を圧倒する恐ろしい自然ではなく美しいおだやかな自然を称賛し描き、新しい表現として英国の文化が継承されてゆく伝統的な遺産となった。新大陸の自然を語る文学者としては J. F. Cooper クーパーや H. D. Thoreau ソロー、自然を描く画家では T. Cole コールや F. E. Church チャーチらが征服の対象ではない自然を描いた。

一方、ヨーロッパから新大陸へ渡った人々は上陸し居留地を確保した西海岸から北アメリカ大陸の「西部開拓」へと向かう。開拓者たちは当初は自らの暮らしの場を大自然の中に切り拓くために自然を従わせようとしたが、やがて眼前の未だ人為が及んでいない大自然に圧倒され新大陸の壮大な美しい自然に心を奪われていった。この新大陸の壮大な自然との遭遇は、生きてゆくために大自然と闘い大自然を拓くことと、その大自然の中で生きてゆくことを通してヨーロッパの資産に対抗するアメリカのアイデンティティの主要な部分を形作ってゆく。

大自然の中に新生国家アメリカを刻むという思念がフロンティアにおいて芽生えて育っていった。1870年代までにこの思念は、原自然を護ることの重要性を認識し始めるまでに進化した。世界各地から北米大陸へと移り住んでアメリカ人となった者にとって、国土から美しく壮大な原自然が失われることになれば自らがアメリカ人であることの価値の重要な一角が失われることになると感じるだろう。画家カトリンが Nation's Park として着想しミューア達が実現へと導いていた国立公園 National Park の誕生期は、その国土において文明が原自然を破壊し始めていた時期だった。

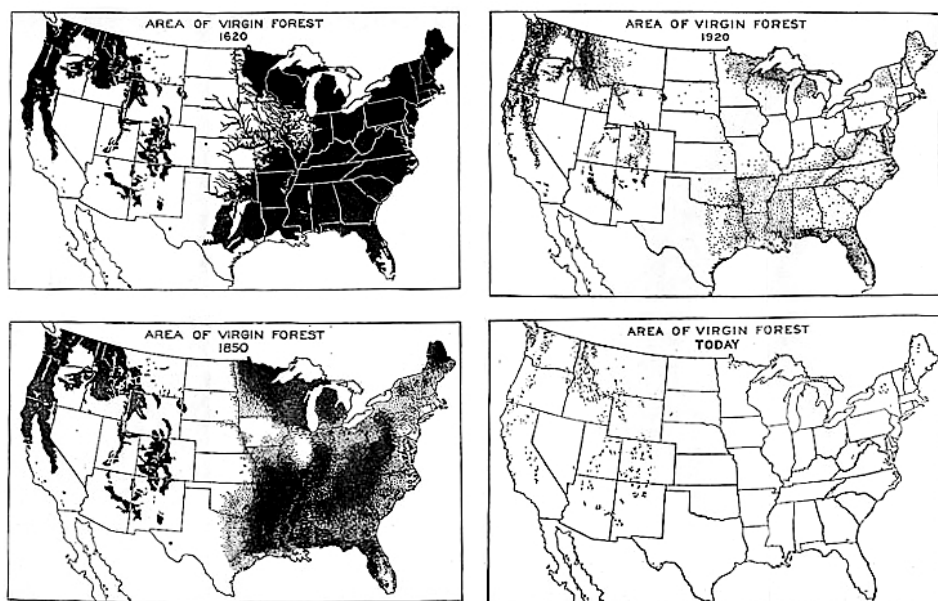


図 アメリカ合衆国における森林の減少
(原生林の分布 1620 年から現在まで 4 期)

国立公園について連邦政府の法制度上の沿革を時系列によって辿れば、世界最初の国立公園 National Park は 1872 年に創設されたイエローストーン国立公園 Yellowstone NP であり、また行政制度の始まりとしては 1916 年に成立した Organic Act (National Park Service Organic Act 内務省 NPS 国立公園局設置法) により内務省内の行政機関として制定された国立公園局 National Park Service である。これは既に国立公園の始原を論ずる諸書また諸論文に多く記述されている。しかし国立公園が何故どのようにして始まったか国立公園の誕生物語は名目上の説明によっては知ることとはできない。

最初に国立公園 National Park を着想し、その創設を提唱した画家カトリン George Catlin のヴィジョン⁽²⁾ は、現カリフォルニア州にあるヨセミテ溪谷において部分的に実現した。連邦政府が特別の保護区を設けるため“人類の利益のために”という目的で国の所有地であったヨセミテ溪谷およびマリボサ巨木群をカリフォルニア州に対して譲渡し、1864 年に同州の州有地であるヨセミテ州立公園 (1890 年にヨセミテ国立公園 Yosemite NP となる) が創設された。これは“国立”公園ではなかったが、カトリンの提唱した Nation's Park が具現したものであった。次いで 1872 年に国立公園 National Park であるイエローストーン国立公園 Yellowstone NP の創設によってカトリンの夢は名実ともに実現した。

世界的に著名なこれらの二つヨセミテとイエローストーンの国立公園の両者それぞれの設立の経緯に、現在にまで継続する相矛盾する「原自然の保護」(自然保護区)と「資源の利用」(観光・リекреーション資源)の二つの目的を巡っての相克が見られる。そして興味深いことに、対立するこれら二つの目的を達成しようとするそれぞれの活動が相まって世界最初の国立公園を実現させる駆動力となったのである。

2. ヨセミテ国立公園とイエローストーン国立公園の創設の経緯

ヨセミテ国立公園創設の経緯

1851 年春カリフォルニアのゴールド・ラッシュの狂乱の最中であった時期にシェラ・ネバダ山脈の西側の山腹斜面に Mariposa Battalion 「マリボザ中隊」と名乗る陸軍部隊が先住民を追いついてて居留地へ移動させるために行動していた。これが最初にヨセミテ溪谷* に入った白人たちであった。この中隊に若い軍医 Lafayette Bunnell ラファイエット・ブネルがいた。3 月 27 日に中隊が両側のそそり立った岸壁に挟まれた峡谷にさしかかった時、はるか高所から落ちてくる次々に連なる滝の瀑布の荘厳な景観に、ブネルは感動のあまり「壮麗な景観を見つめているうちに、自分自身がこの大自然に取り囲まれて自然が自分自身の中に充満してくるのを感じた。涙があふれた。」と記

している。しかし部隊長の James D. Savage サベッジはこの景観に何の感慨も覚えなかった。先住民が既に山麓域から逃げてしまったことに憤って部下に命じて彼らの家屋と穀物倉庫に砲火を浴びせた。

1855 年、ブネルがヨセミテ溪谷を旅した 4 年後に英国人 James Mason Hutching ハッチングスが一团の白人たちを率い現地人ガイドを伴ってヨセミテ溪谷に入った。これが二番目にヨセミテ溪谷に入った白人たちである。ハッチングスは金鉱脈の発見に失敗しゴールド・ラッシュとは無縁の他の方法、美しい溪谷にホテルを建築し観光客を招くことによって一財産を築こうと画策し現地調査していた。1859 年にハッチングスは再び、今度は写真家と記者を連れてヨセミテ溪谷に入った。ヨセミテの写真と記事は拡がり、その自然美を自分自身の目で見たいと熱望する人々を惹き付けた。

一方、*the New York Tribune* ニューヨーク・トリビューン紙の編集者 Horace Greeley グリーリーは彼が現地に来てセコイアの巨樹を見上げ「もし、国家があるいはカリフォルニア州が直ちにマリボザの巨樹群を破壊から護る手立てを取らなければ、私は深く嘆くことになるだろう。この貴重な自然は今後何千年にもわたって特別な注意をもって保護されなければならない。」と書いた。

ニューヨーク市のセントラルパークの設計者として、また他の多くの都市公園の設計者として著名な Frederick Law Olmsted オルムステッドは「ヨセミテは自然の最も素晴らしい栄光である。そこでは、荘厳さの極致と美しさの深みが統一されて表れている」と絶賛した。

カリフォルニア州選出上院議員 Sen. John Conness ジョン・カネスは「ヨセミテ溪谷とマリボサ巨木林をカリフォルニア州に譲渡する法案」^{**} を 1864 年 5 月 17 日連邦議会に提出した。これは史上初めて国有地を「自然と景観を未来の公共のリゾートとリクレーションのために保存する」ことを条件として国家が自治体に譲渡する法案だった。南北戦争の最中の同年 6 月 30 日、大統領アブラハム・リンカーン President Abraham Lincoln はこれに署名した。連邦政府が所有する地が譲渡されて州直轄のヨセミテ公園となった。これによってカトリンの夢の一部が実現した。

ヨセミテを管理する評議会の一員に指名されたオルムステッドは、ヨセミテの将来に関する詳細なレポートを提出した。1865 年夏にオルムステッドの引率によるヨセミテの巡検があったが彼は「未来の世代が持つ原生の自然の恵みを享受する権利」が何よりも重要であると語っている。オルムステッドは自然と景観を護るための厳しい規制を提案したが、当時の州議会にとって明確な結論

* Yosemite ヨセミテという名称は、Lafayette Bunnell ラファイエット・ブネルの命名による。当初ブネルはそれが先住民の部族名でありまた彼らによる溪谷の呼称でもあると思い Yosemite Valley ヨセミテ溪谷と名付けた。これが世界的に有名なヨセミテ国立公園の名称の始まりであるが、後に地名（溪谷の名称でもある）は Ahwahnee アワーニー（ぽかんと開いた大きな口のような場所）であり部族名は Ahwahneeches アワーニーチーであることが判明した。Yosemite ヨセミテとは同部族のことばで「奴らは、人殺しどもだ。」という意味である。

** 法案名：An Act Authorizing a grant to the State of California of the “Yosemite Valley” and of the land embracing the “Mariposa Big Tree Grove”

を得るには難しすぎる懸案と見做され、差し止められてしまった。ハッチングスは既にヨセミテにおいて観光業を始める準備をしていたが、政府は同地を公共のものであると宣言して永久に保護しようとしていた。厳格な法を無視してハッチングスは私企業の活動を展開しようとした。1869年にハッチングスは31才のスコットランド人を雇ったが、これが若き日の John Muir ジョン・ミューアだった。ミューアはこの時ヨセミテと出会った。ハッチングス自身はヨセミテの自然を愛していた。またオルムステッドはヨセミテを護ろうと努めていた。しかしミューアははるかに両者に勝ってヨセミテを賞揚していた。ミューアは宗教的な熱情によって国立公園の理想を自分自身に浸潤させていたのである。ミューアはヨセミテについて「これまで私が入ることを許された全ての大自然の素晴らしい神殿をはるかに凌駕して……シエラ山脈の聖所」と記している。ウィスコンシン大学で地質学と植物学を学んだミューアはヨセミテ溪谷の地形形成は氷河の浸食によるものだと見抜いたが、カリフォルニア州地質技師の Josiah Whitney ホイットニーは草花や岩に語りかけるミューアを無学な変人と決めつけ溪谷の地形的成立ちについてもミューアの説を否定した。今日の地質学と地形学はミューアが正しいことを明白に示している。

この間、ハッチングスはヨセミテでの事業について政府を相手に裁判を起こし遂に連邦最高裁判所において争われる事態にまで発展した。これによってヨセミテ法案は憲法上の懸案となった。1875年ハッチングスは自分が所有するホテルから立ち退かされ、ヨセミテ溪谷から追放された。ミューアはオークランドに移り後にアメリカ合衆国の自然保護と国立公園の展開を大きく推進させることになる一連の著作活動を開始した。

イエローストーン国立公園創設の経緯

1800年代の前半に、ワイオミング領の一角に泥の池から大きい気泡が湧き上がり台地から蒸気と熱水が噴き上がる幻想的な地があるとのレポートが現れる。それは Yellowstone River イエローストーン川の水源域にあると伝えられたが誰も真面目に受け取らなかった。その後イエローストーン地域は1869年から1871年まで次々に派遣されそれぞれ David E. Folsom ファーオサム、Henry D. Washburn ウォッシュバーン、Ferdinand B. Hayden ハイデンに率いられ現地を踏査した三つの探検隊によって報告がなされるまで殆ど知られることはなかった。それ以前にイエローストーン地域への探検の記録としては1859年から翌年にかけて踏査した Brigadier Reynolds レイノルズの探検隊によるものと1869年の Charles Cook クックらが率いた探検隊による報告がある。

伝聞する興味深い「噂」を検証するため、1870年未だ州にはなっていなかったワイオミング領と一部モンタナ領に広がるイエローストーンへ入った Henry D. Washburn ヘンリー・ウォッシュバーンに率いられた探検隊には、銀行家、上院議員の息子、新聞社の通信員、そして探検中に37日間行方不明となる同隊員中最年長54才の Truman C. Everts トルーマン・エバーツらがいた。この探検隊を強く後押ししていたのは、自らも隊員として参加しイエローストーン地域の未来の繁栄は the

Northern Pacific 北太平洋鉄道つまり第二大陸横断鉄道の貫通と表裏一体であると確信していたナタニエル・ランフォード Nathaniel Pitt Langford だった。1870 年までに北太平洋鉄道はダコタからモンタナへ鉄道を延長敷設することを計画していたがこれによってイエローストーンへのアクセスの独占を狙っていた。

探検開始から二週間で「噂」が本当であったことが判る。探検隊は硫黄泉の熱湯が湧き上がっている地点に行き当たった。ランフォードはイエローストーンが北太平洋鉄道の出資者たちと彼自身が夢見ていたもの以上の大きな富をもたらす希少地であると確信した。探検の途上、イエローストーン湖の近辺で隊員中最高齢で強度の近眼であったエバーツが行方不明になった。搜索隊が派遣されエバーツは 10 月 16 日 37 日間の徘徊から救出されたが、この搜索活動の途上で搜索隊は雪と深い森林の狭間に「信じられない大量の熱水が空に向かって吹き上げられている」のを目撃した。これが現在イエローストーン国立公園の最もよく知られた観光スポットであり世界によく知られている間欠泉 Old Faithful オールド・フェイスフルである。

1871 年ペンシルヴェニア大学地理学教授の Ferdinand B. Hayden ハイデンは科学者たちから成る探検隊を率いてイエローストーンの真価を確かめるために現地を踏査した。この探検隊には自然科学者の他に画家と写真家が参加していた。探検から戻り連邦議会が待ちわびている報告書を作成していたハイデンに A. B. Nettleton ネットルトンという人物から手紙が届いた。ネットルトンは北太平洋鉄道のために活発にロビー活動を行っていたが、ハイデンに「その素晴らしい間欠泉の流域を人為による破壊から護るため」同地域の保護を図る立法措置を議会に働きかけるべきだと促した。ネットルトンは北太平洋鉄道の利益のために観光客の導因となるイエローストーンを保護するために活動していたが、ハイデンはこのネットルトンの進言に励まされて立法化の提言を含めた議会への報告書を作成しその中で「国法によって、私企業や私的な活動から貴重な当該地域を護らなければなりません。そうしなければイエローストーンはもう一つのナイアガラ、即ちもう一つの連邦政府の失態となってしまうでしょう。」と述べた。1872 年 3 月 1 日大統領ユリシーズ・グラント President Ulysses S. Grant の署名により、総面積 8,980 平方 km におよび現在のワイオミング、モンタナ、アイダホの 3 州にわたる、文字通りの世界最初の国立公園であるイエローストーン国立公園が創設された。広大な西部の土地管理は国務省の分掌であったので、国立公園は国務省の管轄となった。

イエローストーン国立公園が創設された 1872 年は連邦政府が民間へ国有地を次々に割譲していた時期に一致している。イエローストーン国立公園の運営に当たって Yellowstone Park Improvement Company イエローストーン国立公園開発会社が設立されたが、事実上の独占企業であった同社には多様な同地域の開発権限が付与され、大量の林木の伐採やシカの狩猟、さらには食用のためのバッファロー狩り、そして温泉水の流路の付け替えなど乱開発が始まった。

イエール大学で鳥類学と化石学（古生物学）を修めた雑誌編集者であった George Bird Grinnell

グリーンネルはこのような「国立公園の略奪」を止めるために保護を図る闘いを開始した。グリーンネルの闘いに、南北戦争の英雄であった將軍シェリダン General Phillip Sheridan とミズーリー州選出上院議員ベスト Senator George Vest が加わり首都のワシントンでの活動と現地への見学ツアーとによって乱開発に抗する公園保護の運動が展開されていった。イエローストーン国立公園創設のほとんど直後から、「保護」と鉄道資本が絡む「開発」の闘いが始まっていたのである。

3. 保護と利用——「キャンプファイアー神話」の光と影——

「急がねばならない。(連邦政府によるイエローストーン国立公園制度の立法化を) 急がなければ、土地を不法占拠する者や土地を要求する者たちがイエローストーンへ入ってしまう。個人に関わらせるよりも我々(北太平洋鉄道)が関わる方が連邦政府と上手く折衝し旅行観光がもたらす利益をはるかによく揚げる事が出来る。」

—— Jay Cooke ジェイ・コック 1871年12月30日

この北太平洋鉄道の出資者コックの意見表明の12日前1871年12月18日に「Yellowstone イエローストーンを Public Park 国立公園とする」法案は連邦議会に上程され、翌年1872年3月1日に成立した。(この時点では National Park という語は法案に記されていないが、現在では Yellowstone National Park Act 1872 として標記している。)

キャンプファイアーの神話

国立公園創設の起源を語る次のような「神話」がある。

イエローストーン地域を踏査していたウォッシュバーン探検隊は、ある初秋の日ファイヤーホール川とギボン川が合流してマジソン川となるマジソン合流点に宿営地を設定した。



マジソン合流点での宿営を再現した写真 NPS

隊員たちは日没後はキャンプファイヤーを囲んで時を過ごしたが1870年9月19日の夜に後に神話化されることになる「歴史的な」語り合いをした。燃え上がる火を見つめ隊員たちは体を休めくつろぎながら、自分たちが見てきたものを、壮麗な山々を、河川を、温泉を、間欠泉を、野生動物たちを語っていた。弁護士コーネリアス・ヘッジス Cornelius Hedges は、地質、鉱物、動植物など地上で最も素晴らしい自然の宝庫であるこの地を今のままの状態で保護し開発から護るべきだと強く語り、火を囲んでいた他の隊員たちも彼の意見に同意した。このキャンプファイヤーを囲んだ隊員たちの語り合いが、イエローストーン国立公園のそして後には多くの国立公園が誕生することになった、さらには国立公園が世界中に広がることになった、始まりであると言われている。実際1980年代の半ばに筆者も複数の国立公園で公園管理事務所の案内所 visitor center や公園管理人 park ranger からこのキャンプファイヤー物語を聞いたことがある。現在では歴史資料の検証を経て、そのようなキャンプファイヤーを囲む話は無かったとされており、NPS 国立公園局の歴史担当部局もほぼ無かったとしており、さまざまに「無かったこと」が検証されるに至っているが、それでもこの美しい神話はなお語り継がれている。今では非神話化されているこの物語りには、単なる「作り話」ではない真実が含まれている。今もこの神話に描かれているようにアメリカのそして世界中の国立公園や自然保護区でおびたしい数の人々が、日が沈み夕食を取りながらキャンプファイヤーを囲み原生の自然を味わうことの幸福と自然を護ることの大切さについて語り合っている。その語り合いは確かに国立公園の原点なのである。このロマンチックなキャンプファイヤーの神話には独占企業の影は無い。しかし実際の探検隊の背後には西部に向かって利権を拡張する鉄道資本があった。1920年に至るまで、国立公園は「西部にある公園」だった。ミシシッピー川以東ではメイン州のアーカディアのみが唯一の東部の国立公園だった。

創設の当初からアメリカ合衆国国立公園は、「利用」と「保護」という二つの対照的なミッションを持っている。

国立公園は独立宣言と同様に、民主主義にその錨を下ろしている。「王侯貴族のためのリクレーションの場」を保つために自然保護が図られていた旧い世界ではなく、そこから大西洋を超えて新大陸に移り住んだ人々によって建国された新しい国家アメリカ合衆国が、世界最初の国立公園をつくった。社会階層を超えて人種や民族グループその他のさまざまな属性に依らず「全ての国民がそこに入って楽しむことが出来る」国立公園（これは正に George Catlin が抱いていた Nation's Park 「国民の公園」である）という民主主義的価値と、その国立公園を後の世代の「未来のアメリカ国民にも提供する」ために「保護区として護り続ける」という課題との相克の中で、アメリカの国立公園は過去150年間にわたって進化し発展しその機能を展開してきた。今日に至るまでこれらの背反する課題を抱きながらも国立公園が維持され、さらには現在では自然公園の他に20種に及ぶ450か所の歴史史跡、リクレーション、文化的価値ある特別な土地が国家が維持し管理する保護区と

して全土に展開するに至ったのは、前報⁽⁷⁾で考察した conservation「保全」の理念を追求し続け実現し続けようとする国民と行政府の意欲があったからである。「破壊か保護か」という無益な対立の構図を脱してそれらのどちらでもない「保全」への道を求め続けた国民が今その豊かな恵みを享受している。

国立公園が出来るまでは、未開の地は適正な土地利用によって価値ある土地へと変わってゆき富を生み出してゆくべきものであった。しかし国立公園づくりは、狩り場としての利用、森林の伐採、農耕地への開拓、鉱山の開発などではなく未開のままを保護区としたのである。国立公園をつくる体験は、未開の地が「未開のままである」ことに価値を見出した体験である。原自然を保護区として国家がこれを護ることが人々を西部へと誘う契機となった。

競争相手や競合する他の企業が立ち入ることが出来ない利益独占の渡り廊下をつないでゆくように鉄道は西へと広がった。これを支える現地拠点が国法によって創立された国立公園だった。そしてこのようにして自然が保護されることになった。原自然の保護制度が、貪欲な文明の利器に乗ってやって来たのである。

我が国では列島の中に世界遺産の指定、特に自然遺産の指定を受けることを巡る論議が活性化しつつあるが、貴重な人類の遺産となるその地へ人々が導入されなければその価値を知り味わいそして維持と保護の支持を得ることは出来ない。しかし、過剰な訪問者の導入はその世界遺産の破壊を招きかねない。かつてミューアは「世界は創造されたが今も創られ続けている。」と言った。国立公園制度はヨセミテとイエローストーンで始まったが、今も多様な議論の中で適正な管理と運営を模索しながらつづられ続けている。

我が国の国立・国定公園のみならず各種の保護区の運営について、先駆であるアメリカ合衆国国立公園制度の歩んできた道筋を辿り、そこから学ぶことの意義は小さくはない。

4. 終わりに

「私たちは飲み食いしようではないか。明日をも知れぬ命なのだから。」

(新約聖書 コリント人への第1の手紙 15章32節b)

ブレーズ・パスカルは人が「死を忘れるため」の慰戯 *divertissement* の一つとしての「狩り」を挙げている。狩りの準備の日々、狩りの当日、獲物を得て後の宴、そして狩りの思い出話の日々、等等、長く何日にも亘って人は我を忘れて狩りに夢中になることが出来る。物理を探究しながら見えない世界を見つめ続けたパスカルは、巧みにデザインされた狩りはギャンブル、恋愛、戦争と並び人が死すべき者である自らの有限性を一時忘れるための人間の慰戯（気晴らし）だと見抜いた

のである。自然保護は、その「慰戯」の場の維持から始まった。

大西洋の東側での自然保護の実践の始まりは、ヨーロッパ王侯貴族の狩り場の維持であったものが、西側の新大陸では「国民の公園」としての保護区の設定となって実現した。保護の対象としての手付かずの自然すなわち原自然を表わす語としての英語 wilderness ウィルダネスが、古英語 wildeorness 「狩りの場」に由来していることを観たが、新大陸の言語では wilderness ウィルダネスは旧い世界の所以を引き摺ってはいない。それは文明が未だ及ばない人為の外にある「原生の自然」を明瞭に意味している。

人間の内に高貴と食欲が対立する。世界最初の国立公園は、現実政治の立法措置の過程においてまたその実現を目指す施行の経緯において、この際立って対立する二つの属性が縦糸に「自然保護」を、そして横糸に「資源利用」を織り成しながら実現したのである。

参考文献

引用

- (1) IUCN, 1994. *Guidelines for Protected Areas Management Categories*. IUCN, Cambridge, UK and Gland, Switzerland. 261pp.
- (2) 村上公久「国立公園の起源—国立公園の創設を導いた画家 G. Catlin」聖学院大学論叢 vol. 23 No. 1, 2010
- (3) 村上公久「環境思想」, 『情報教育事典』(3. 社会・生涯学習・環境・哲学・思想 中課題「環境思想」) 丸善 2008年 pp. 109, 110
- (4) Wallace Stegner, "The Best Idea We Ever Had," in *Marking the Sparrow's Fall: The Making of the American West*. Edited by Page Stegner. New York: Henry Holt Company, 1998, p. 137.
- (5) PBS Public Broadcasting Service, *The National Parks: America's Best Idea*, PBS 放映 2009 TV 放映 ドキュメンタリーフィルム
- (6) Dayton Duncan, Ken Burns, *The National Parks: America's Best Idea*, Knopf 2009
- (7) 村上公久「自然保護と環境保全」—保続的(持続的)発展を支える思想—Preservation and Conservation Practice: Two contrastive ideas in maintaining our environment [in Japanese] 論叢 聖学院大学論叢 vol. 23 No. 2, 2010

参考

- Albright, Horace M., and Robert Cahn. *The Birth of the National Park Service: The Founding Years, 1913-33*. Salt Lake City: Howe Brothers, 1985.
- Albright, Horace M., and Marian Albright Schenck. *Creating the National Park Service: The Missing Years*. Norman: University of Oklahoma Press, 1999.
- Butler, Mary Ellen. *Prophet of the Parks: The Story of William Penn Mott, Jr.* Ashburn, VA: National Recreation and Park Association, 1999.
- Dilsaver, Lary M., ed. *America's National Park System: The Critical Documents*. Lanham, MD: Rowman & Littlefield, 1994.
- Everhart, William C. *The National Park Service*. Boulder, CO: Westview Press, 1983.
- Foresta, Ronald A. *America's National Parks and Their Keepers*. Washington: Resources for the Future, 1985.
- Grove, R. H. "Origins of Western Environmentalism," *Scientific American* 267 (1): 1992 pp. 22-27.

- Hartzog, George B., Jr. *Battling for the National Parks*. Mt. Kisco, NY: Moyer Bell, 1988.
- Hosmer, Charles B., Jr. *Preservation Comes of Age: From Williamsburg to the National Trust, 1926-1949*. 2 vols. Charlottesville: University Press of Virginia, 1981.
- Ise, John. *Our National Park Policy: A Critical History*. Baltimore: Johns Hopkins Press, 1961.
- Jones, Eric L. "The History of Natural Resource Exploitation in the Western World," *Research in Economic History*, 1991 Supplement 6, pp. 235-252
- Joseph L. Sax, "America's National Parks: Their Principles, Purposes, and Prospects," in *Natural History* (October 1976), pp. 59-87.
- Möller, Alfred *Der dauerwaldgedanke, sein sinn und seine bedeutung*. Berlin, J. Springer, 1922
- Muir, John *Studies in the Sierra* (1950 reprint of serials from 1874) The Sierra Club 1950
- Muir, John *Picturesque California* (1888-1890) San Francisco, New York: The J. Dewing company, 1890
- Muir, John *The Mountains of California* New York: The Century co. 1894
- Muir, John *Our National Parks* Boston and New York: Houghton Mifflin company, 1909
- Muir, John *My First Summer in the Sierra* Boston, New York: Houghton Mifflin company, 1911
- Muir, John *Edward Henry Harriman* Garden City, N. Y.: Doubleday, Page & company, 1911
- Muir, John *The Yosemite* New York: The Century Company, 1912
- Muir, John *The Story of My Boyhood and Youth* Boston: Houghton Mifflin Company, 1913
- Muir, John *Letters to a Friend* Boston and New York: Houghton Mifflin Company, 1915
- Muir, John *Travels in Alaska* Boston and New York: Houghton Mifflin Company, 1915
- Muir, John *The Cruise of the Corwin* Boston and New York: Houghton Mifflin Company, 1917
- Muir, John *Steep Trails* Boston and New York: Houghton Mifflin Company, 1918
- Nash, Roderic *American Environmentalism: Readings in Conservation History* 1990
- Rettie, Dwight F. *Our National Park System: Caring for America's Greatest Natural and Historic Treasures*. Urbana: University of Illinois Press, 1995.
- Ridenour, James M. *The National Parks Compromised: Pork Barrel Politics and America's Treasures*. Merrillville, IN: ICS Books, 1994.
- Rothman, Hal K. *America's National Monuments: The Politics of Preservation*. Lawrence: University Press of Kansas, 1994.
- Runte, Alfred. *National Parks: The American Experience*. 2d ed. Lincoln: University of Nebraska Press, 1987.
- Sellers, Richard West. *Preserving Nature in the National Parks: A History*. New Haven: Yale University Press, 1997.
- Shankland, Robert. *Steve Mather of the National Parks*. 3d ed. New York: Alfred A. Knopf, 1976.
- Swain, Donald C. *Wilderness Defender: Horace M. Albright and Conservation*. Chicago: University of Chicago Press, 1970.
- Turner, James Morton, "The Specter of Environmentalism": Wilderness, Environmental Politics, and the Evolution of the New Right. *The Journal of American History* vol. 96. no. 1 2009 pp 123-47
- Wirth, Conrad L. *Parks, Politics, and the People*. Norman: University of Oklahoma Press, 1980.
- 図
- 図 アメリカ合衆国における森林の減少（原生林の分布 1620 年から現在まで 4 期）
1620, 1850, and 1920 各年の図: William B. Greeley, *The Relation of Geography to Timber Supply, Economic Geography*, 1925, vol. 1, p. 1-11.
- TODAY（現存する原生林）の図: compiled by George Draffan, based on a map of the remaining roadless areas in *The Big Outside: A Descriptive Inventory of the Big Wilderness Areas of the*

United States, by Dave Foreman and Howie Wolke (Harmony Books, 1992).